

新型コロナウイルス感染拡大防止に取り組みつつ、 山登りを再開していきましょう

5月25日に首都圏に出されていた緊急事態宣言が解除され、6月19日には一都三県に出されていた他県への移動自粛要請も解除となり、いろいろ制約はあるものの、ようやく山に行ける状況になりました。例会についても、7月例会より再開します。例会は不安のある方は参加しなくてもよいものとなりますが、参加希望の山行がある場合はリーダーに直接電話等で連絡を十分に取りあってください。

埼玉県連総会議案議決結果について

新型コロナウイルスの影響で、埼玉県連第53期総会議案は電子メールによる書面議決で採決が行われ、特に反対票は無く承認されました。また、武笠前理事長に替わり瀬下理事が新理事長となりました。橋本さんは、ハイキング委員会、自然保護委員会を担当します。

緊急事態宣言解除を受けて、埼玉県連からも声明が発出されました。新型コロナウイルスの影響が収束するまで、我々がどのようなスタンスで登山に臨むべきか分かりやすくまとめられていると思いますので、以下に転載します。

「5月25日、埼玉県はじめ首都圏に出されていた緊急事態宣言が解除されました。これは、コロナとの闘いが収束したことを意味するものではなく、決して警戒を解くことはできませんが、6月からは、感染拡大防止に配慮しながらの活動の再開に向け、会社や学校その他、様々な組織、集団それぞれの模索が始まることと思われまます。各スポーツ団体においても、それぞれのスポーツの特性を考えながらの、手探りの歩みが始まるでしょう。そんな中、私たち労山埼玉県連盟も、コロナの感染拡大防止に取り組みつつ、活動を再開していきましょう。

再開にとって、登山には有利な点と不利な点があります。登山というスポーツは、野外で、観客を置かずやるスポーツであり、相撲やラグビーなどのような激しい身体接触もありませんので、再開に有利な点があります。しかし同時に、活動には感染の機会となりやすい電車やバス・車などでの長距離の移動を伴う場合が多いですし、山小屋に泊まる場合には3密の心配があるなどの不利な点もあります。私たちは、新鮮な空気を吸いながら行う野外活動であるという有利さを基本に置きながら、不利な点に対して必要な対策を取ることで、活動をゆっくりと再開していきましょう。

まずは、当たり前のことですが、体調の悪い方、熱のある方、咳の出る方は、山行、例会などの活動に参加しないことを徹底しましょう。山行に伴う移動では次のことに注意しましょう。

- * 電車やバスを利用する場合は、可能なかぎり、空いている時間のものを利用する
- * できるだけ近距離で、都道府県を跨がない日帰り登山から始める
- * マイカーの利用はお勧めだが、車の乗車定員を減らし、できる限り密な状態を避ける
- * 車内では原則としてマスクを着用する
- * 車内は、窓を開けて換気を良くして走行する
- * 途中は、短時間のトイレ休憩のみで、サービスエリア、コンビニにはできるだけ寄らずに登山口に向かう

山で宿泊することはどうでしょう。感染拡大防止の点からは、一人用テントの利用がお勧めですが、テント山行はしない、一人用テントは持っていないという方も多いと思います。それでは、山小屋に泊まることはどうでしょう。現在、山小屋も再開に向けて模索を始めています。定員をぐっと減らし、就寝時は2畳に1人くらいのスペース、布団は撤去して利用者に寝袋持参をお願いする、食事は時間差をつけ、対面での座り方を避けるなど、3密を避けた運営を目指すところも多いようです。このような感染拡大防止対策を取っている山小屋かどうかご自分たちで確認してから利用してください。これからの山小屋利用では、寝袋、マスク、アルコールジェル、手拭き用ペーパー、使ったティッシュ等を密閉して持ち帰るためのジップロックなどが必需品になると思われまます。

登山中は、荒い呼吸で長い時間行動を共にすることになりますから、通常よりは前後の間隔を長く

とって歩き、休憩も対面にならないような形で取り、食事や行動食を分け合うのは避けた方が良いでしょう。

このように感染防止対策を取りながら登山活動を再開していく中で、治療薬やワクチンができ、それほど気を使わなくて良い時代も来るかもしれませんが、少なくともそれまでの間は、登山の危険対応として、遭難しない、怪我をしないための注意とともに感染を拡大しないための注意も合わせて行っていきましょう。しかし、好きな山登りを再開できるのですから、皆さん厭わずやっていきましょう。

そして、遭難防止、事故防止についても、今まで以上に注意を払っていかなくてはなりません。ただでさえコロナで医療がひっ迫しているときに、自分たちの趣味の活動で怪我をして、医療に更なる負荷をかけることは避けなければなりません。今は、救助に駆け付ける救助隊員も事故者のコロナ感染も考え、防護服を着ながらの救助活動になることがあるようです。一人ひとりが十分注意をし、絶対に事故を起こさない構えで、山に行きたいと思います。自粛中の体力や筋力の低下も考え、最初は歩行時間の短い山、難易度の低い山から再開することを心掛けましょう。

緊急事態宣言では、随分と「不要不急」という言葉が使われました。登山は、確かに「不急」の活動かもしれませんが、それは価値がない活動ではありませんし、それが大好きな私たちにとっては「不要」な活動ではないと思います。もちろん緊急時に、必要な活動について順序がつけられるのはやむを得ない面がありますが、これからは自分にとってかけがえのない活動を注意深く再開していく気持ちで取り組んでいきたいと思います。

新しい感染症の流行は、人間による無秩序な生態系への侵入、環境破壊によって動物と人間の距離が縮まったことや、地球温暖化によって住む場所を奪われた動物が人間と接触することなどで、それまで野生動物等の持っていたウイルスが人間に伝染ってくることによって起こると言われています。私たち労山の取り組む自然保護の運動は、その意味でコロナウイルスとの共存のアプローチという位置づけもできます。自然を守り、遭難事故を起こさず、素晴らしい山登りという活動をゆっくりと再開していきましょう。」

2020年5月28日

埼玉県勤労者山岳連盟 理事長 瀬下 啓司
遭難防止・安全教育委員会担当理事 上野 司

夏のアルプスについて

コロナの影響で、山小屋の予約が困難な事、少人数での山行が推奨されている事等から、今年は全員でまとまった形での企画は行わないこととします。当面の会山行計画で提案されている企画に参加してください。これ以外にも計画をお持ちの方は例会で提案をお願いします。

台湾・玉山登山は中止

台湾ではコロナをかなり抑え込んでいるようですが6/21現在、外国人の入国を禁止しており、10月頃の状況も予測できないため、今回は中止します。

当面の会山行計画

- 1 川歩き・小鹿野町赤平川 or 両神小森川** [計画者：橋本] ※Lを含め6名以下で実施
日 程：7/14(火) 川歩きで清流、溪谷を楽しむ
この川は急流でなく、大石大岩や淵は少ない。水量も割合少なく、膝下くらいの渡渉で歩ける。兩岸は大岩や地層が見え、木々の日陰もある。近くに車道があり、体力に応じ、歩く距離を調整できる。
- 2 霧ヶ峰** [計画者：木村]
日 程：7/18(土) 八島ヶ原湿原～蝶々深山周回 CT:4:00
- 3 帝釈山・会津駒ヶ岳・燧ヶ岳** [計画者：木村]
日 程：7/23(祝)～26(日) 桧枝岐のキャンプ場をベースに登山口からそれぞれ往復
- 4 御嶽山** [計画者：木村] 前夜発日帰り+下山後テント泊 CT:6:45
日 程：7/31(金)～8/2(日) 中の湯～行場山荘～女人堂～覚明堂～剣ヶ峰～往路を戻る
登山口 or 道の駅で前泊、下山後キャンプ場泊

5 鹿島槍ヶ岳～五竜岳縦走 [計画者：高橋仁] CT:4:25/8:00/9:50

日 程：8/24(月)～26(水) 白馬五竜スキー場駐車場＝扇沢～柏原新道登山口～種池山荘(泊)
～爺が岳～冷池山荘～布引山～鹿島槍ヶ岳南峰～北峰～キレット小屋(泊)～ロノ沢のコル
～五竜岳～五竜山荘～小遠見山～アルプス平＝テレキャビン＝駐車場

6 六十里越街道 [計画者：木村]

日 程：9/18(金)～22(祝) 鶴岡(泊)～追分石～注連寺～大日坊～田麦俣(泊)～七ッ滝
～湯殿山参籠所(泊)～月山往復～湯殿山参籠所(泊)～大岫峠～志津

次回例会のお知らせ

7月4日(土) 午後3時30分～ 市民ホール

学習：「ホワイトレッキング報告会」 (講師：ホワイトレッキング参加の皆さん)

当面の日程、お知らせ等

・9月例会 9/5(土) 15:30～ 市民ホール 学習：「登山における水分・栄養補給」(講師：橋本)